



令和4年7月7日14時00分
近畿地方整備局

令和3年近畿一級河川の水質現況 ～近畿地方整備局管内一級河川の水質調査結果の公表～

○国土交通省は、毎年7月の河川愛護月間に、全国の一級河川の水質調査結果を公表しています。

○令和3年は、淀川水系猪名川、及び新宮川水系市田川が、過去10年間で水質が大きく改善し、新宮川水系熊野川、及び北川水系北川が、水質が最も良好な河川でした。

【主な水質の現況】

○過去10年間（平成23年から令和3年）で水質（BOD）が大きく改善された地点

- ・淀川水系猪名川利倉地点（大阪府豊中市）
改善幅 5.6mg/ℓ（7.9 → 2.3） →5年連続全国第1位
- ・新宮川水系市田川市田川河口地点（和歌山県新宮市）
改善幅 2.6mg/ℓ（3.9 → 1.3） →全国第4位

○水質が最も良好な河川※（全国12河川のうち近畿管内で2河川）

- ・新宮川水系熊野川（和歌山県）
- ・北川水系北川（福井県）

※国土交通省が実施している水質調査のうち、一定の条件を満たす河川（次頁右下段参照）

公表資料の詳細は以下URLに掲載

- ・近畿版 <http://www.kkr.mlit.go.jp/river/kankyou/suisitu.html>
- ・全国版 http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/suisitu/index.html

<取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、堺市政記者クラブ、在堺記者クラブ、滋賀県政記者クラブ、福知山市政記者クラブ、舞鶴市政記者クラブ、綾部新聞記者クラブ、京都府政記者クラブ、宇治日刊記者クラブ、宮津市政記者クラブ、兵庫県政記者クラブ、姫路市政記者クラブ、但馬県民局県政記者クラブ、豊岡市政記者クラブ、奈良県政・経済記者クラブ、五條市政記者クラブ、和歌山県政記者クラブ、和歌山県地方新聞記者クラブ、和歌山県政放送記者クラブ、橋本市政記者クラブ、新宮記者クラブ、新宮中央記者会、福井県政記者クラブ、大野市政記者クラブ、三重県政記者クラブ、三重県第二県政記者クラブ、名張市政記者クラブ、伊賀記者会、熊野市記者クラブ

<問合せ先> 近畿地方整備局 河川部 河川環境課 課長 小長谷 健
TEL 06-6942-0608（直通）



水質が大きく改善された地点

項目	順位	河川名／地点名	BOD(mg/ℓ)
改善幅	1	いながわ 猪名川／ とくら 利倉	5.6 (7.9 → 2.3)
	2	いちだがわ 市田川／ いちだがわかこう 市田川河口	2.6 (3.9 → 1.3)

() 内は平成23年→令和3年

水質が最も良好な河川※

河川名	地点
熊野川	くまのおおはし 熊野大橋
	くまのがわかこう 熊野川河口
北川	かみなかばし 上中橋
	たかつか 高塚
	にしづばし 西津橋

※国土交通省が実施している水質調査のうち、以下の両方の条件を満たす河川

- ・各調査地点のBOD年間平均値について、全調査地点で平均とった値が0.5mg/ℓ
- ・各調査地点のBOD75%値について、全調査地点で平均をとった値が0.5mg/ℓ

利倉は全国1位、市田川河口は全国4位

令和3年近畿地方整備局管内一級河川の水質現況（概要）

1. 令和3年水質調査結果

- 6河川（13地点）におけるBOD[※]の年間平均値が、環境省が定める報告下限値（0.5mg/ℓ）となりました。

くまのがわ 熊野川	くまのおおはし 熊野大橋、熊野川河口	くまのがわかこう
いぼがわ 揖保川	まがり やまさき 曲里、山崎、本町橋	ほんまちばし
まるやまがわ 円山川	ふいちば 府市場	
ゆらがわ 由良川	はずまきばし 筥巻橋、波美橋、由良川橋	はびばし ゆらがわばし
きたがわ 北川	かみなかばし 上中橋、西津橋	にしづばし
くずりゅうがわ 九頭竜川	なかつの 中角、高屋橋	たかやばし

- 近畿地方の一級河川（湖沼を含む）で環境基準の主要な指標であるBOD（またはCOD）の基準を満足している地点の割合は、104地点（全体の90%）となりました。

※BOD（生物化学的酸素要求量）

河川における主要な水質指標。水中の汚れ（有機物）が微生物により分解されるときに消費される酸素の量のこと、BODの値が大きければ水が汚れていることを表す。

※COD（化学的酸素要求量）

湖沼や海域における主要な水質指標。水中の有機物を酸化剤で酸化されるときに消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、CODの値が大きければ水が汚れていることを表す。

2. 令和3年ダイオキシン類の実態調査結果

- ダイオキシン類の実態調査では、全ての地点において水質・底質の環境基準（水質：1pg-TEQ/ℓ 底質：150pg-TEQ/g）を満足しました。

3. 令和3年感覚的な水質指標による調査結果[※]

- 「人と河川の豊かなふれあいの確保」の視点では、4段階中、B「川の中に入って遊びやすい」の地点が多く、14地点中11地点となりました。
- 「豊かな生態系の確保」の視点では、4段階中、A「生物の生息・成育・繁殖環境として非常に良好」の地点が多く、10地点中5地点となりました。
- 「利用しやすい水質の確保」の視点では、3段階中、A「より利用しやすい」の地点が多く、18地点中16地点となりました。

※河川をBODだけではなく、多様な視点でも評価する感覚的な水質指標による調査として、

①人と河川の豊かなふれあいの確保

②豊かな生態系の確保

③利用しやすい水質の確保

の3つの視点により指標のランクを設定しています。

4. 令和3年水質事故等の発生状況

- 令和3年に近畿地方整備局管内で発生した水質事故は40件あり、令和2年の53件から減少しました。

事故の種類は油類流出が多く、事故原因は事故車両からの流出、工場等における操作ミスによる流出が多くなっています。